

小鳥たちを鳥インフルエンザからまもりましょう

～ペットの健康は日頃の飼育管理から～

「国内で鳥インフルエンザが発生したからといって、飼育している小鳥たちが直ちに感染する」ということはなく、日頃の健康と衛生管理に注意すれば特別に心配することはありません。
「次のことを心がけ、私たちの生活や私たちと共に暮らしている小鳥たちを守りましょう。」

気を付けよう



○ 野鳥などに触れさせないように

飼育小屋や遊び場に柵や網をはったり、鳥かごを外に出したままにしないようにしましょう。
日光浴をさせる場合も野鳥と接触しないよう注意しましょう。
エサ入れや水のみ容器を外に放置しないようにしましょう。

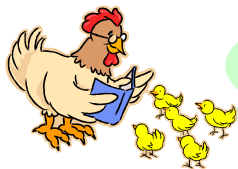


○ 飼育小屋を常に清潔に

飼育小屋専用のゴム手袋・衣服・長ぐつ・マスクを用意して掃除をしましょう。
アルコールや逆性石鹼（薬局で購入可）などで飼育場所を定期的（週に1回程度）に消毒しましょう。
毎日、新鮮な水・エサを与えましょう。

○ うがい・手洗いを忘れずに

世話をする前や特に世話をした後のうがい・手洗いを習慣づけましょう。



よく使われる
消毒薬は

インフルエンザウイルスは

薬局で購入できる消毒薬で容易に死滅します
消毒は清掃後に

逆性石鹼、塩素系、アルコールなどがあります。

○ 「逆性石鹼」成分名：塩化ベンザルコニウムを使用する場合

200～500倍に薄めます。（水20ℓに消毒薬100ccで200倍に薄まります）
噴霧器などで飼育小屋全体にかけてください。
鳥が消毒薬を吸い込まないように注意してください。
鳥小屋入り口は念入りをお願いします。
消毒は天候の良い日を選んで定期的実施しましょう。

愛情を持って
世話しましょう



毎日観察をして、エサ食いや産卵の低下、元気がないなど調子をくずしているようであれば、動物病院に相談しましょう

むやみに小鳥たちを山中に放したり、処分したりせず最後まで責任を持って飼いましょう。

お問い合わせ先

人の健康に関すること：各健康福祉事務所
動物に関すること：兵庫県動物愛護センター（オウム・インコなど）
：各家畜保健衛生所（鶏等家さん類）